

# 読賣新聞

2018年(平成30年)

2月28日 水曜日

## 宮崎



### 気仙沼と日南の魚知る 南郷小で食育授業



タブレット端末で気仙沼市の漁業などを調べる児童

東日本大震災で被災した宮城県気仙沼市と日南市の水産業を学ぶ食育授業が27日、同市立南郷小で行われた。6年生55人が、漁師の

話を聞いたり、インターネットで調べたりした。NPO法人「宮崎文化本舗」(宮崎市)の東日本大震災復興活動支援事業の一

環。気仙沼市や水産関係者でつくる団体「気仙沼の魚を学校給食に普及させる会」の会員が講師を務めた。講師は気仙沼漁港が生鮮カツオ水揚げ量が21年連続で日本で、震災でも記録が途切れなかったことを説明。「日南市の一本釣り漁船も気仙沼漁港に水揚げし、日本一を支えている」と語った。

児童たちはカツオ一本釣り漁の映像を見たり、気仙沼市と日南市の旬の魚や魚を使った郷土料理をタブレット端末で調べたりした。6年の南土居に「(12)は「遠く離れた気仙沼と日南とのつながりを知り、地元を誇りに思う。魚をたくさん食べたい」と話した。